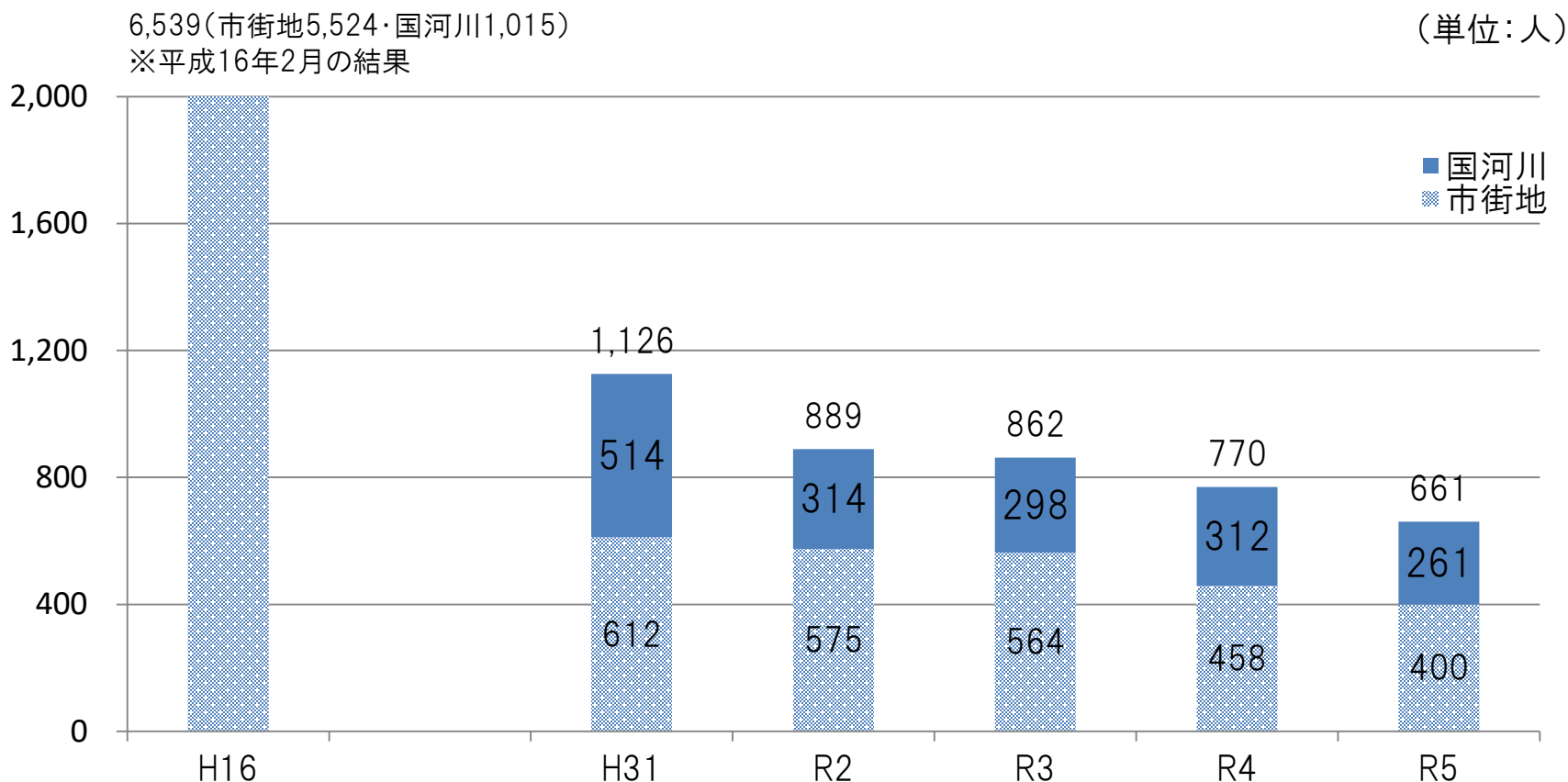


# 東京都におけるホームレスの現状

- 路上生活者概数調査の推移①
- 路上生活者概数調査の推移②
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)①(年齢、路上生活の期間)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)②(仕事の有無)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)③(仕事の種類)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)④(収入状況)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)⑤(路上生活に至った理由)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)⑥(健康状態、対処方法)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)⑦(福祉制度の周知・利用)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)⑧(今後どのような生活を望むか)
- ホームレスの実態に関する全国調査の状況(抜粋)⑨(求職活動)
- 自立支援センター各事業の実績等①
- 自立支援センター各事業の実績等②

# 路上生活者概数調査の推移①

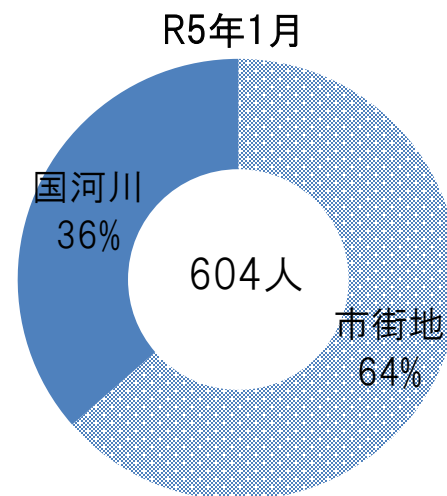
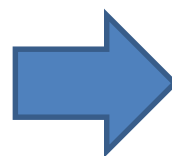
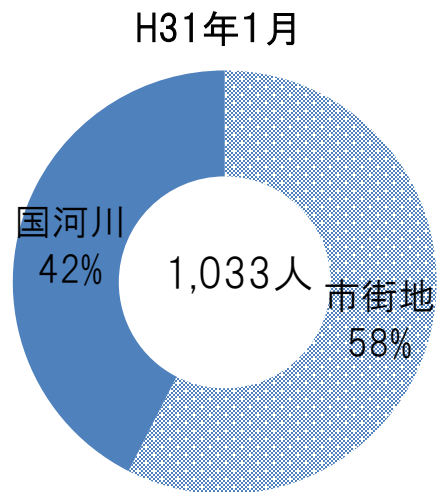
【東京都内における概数の状況(各年1月調査)】



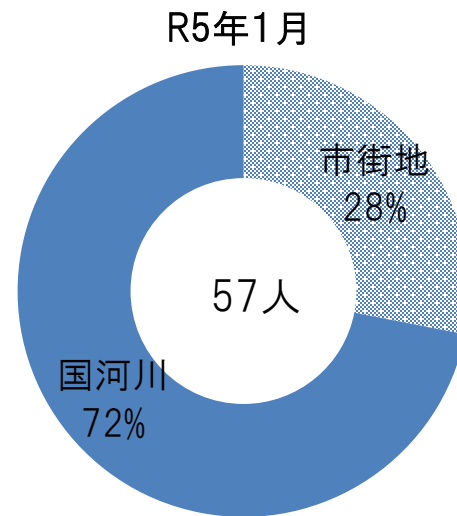
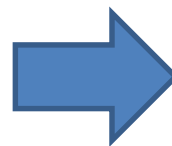
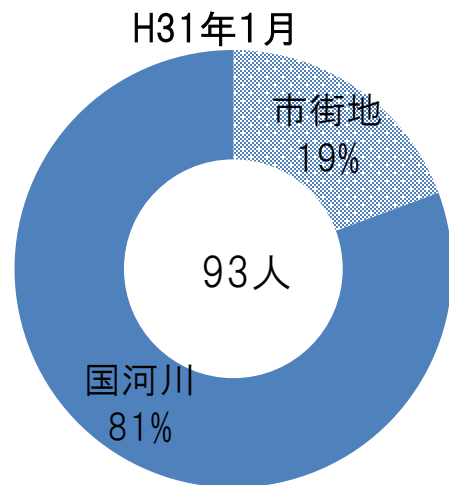
○計画期初から期末までの間、概数調査上のホームレスは1/10程度に減少

# 路上生活者概数調査の推移②

## 【区部における概数の確認状況】



## 【市町村部における概数の確認状況】



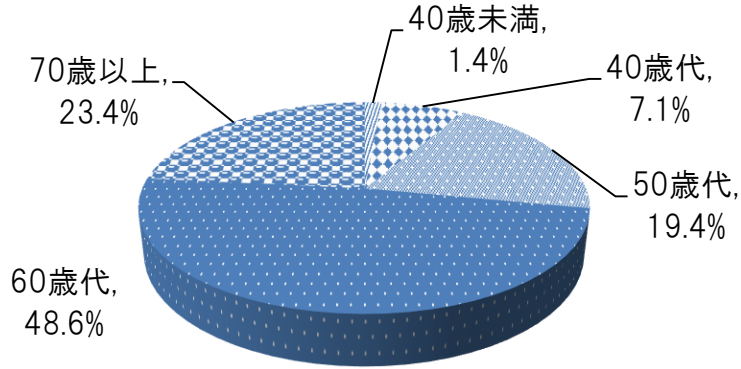
○区部においては、未だ市街地におけるホームレスが64%存在する。

○市町村部においては、多摩川等国管理河川におけるホームレス数が72%を占める。

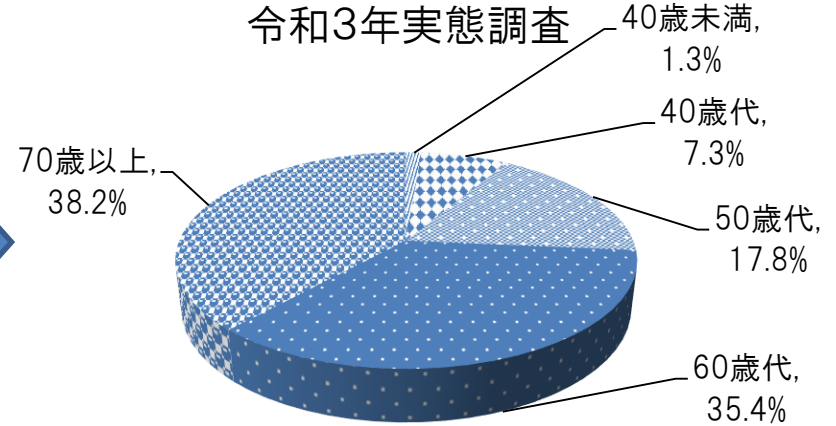
# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）①

## 【年齢（都内）】

平成28年実態調査

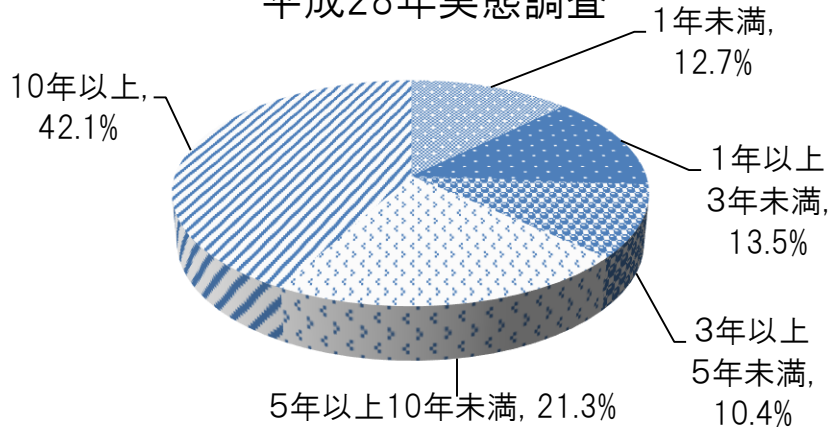


令和3年実態調査

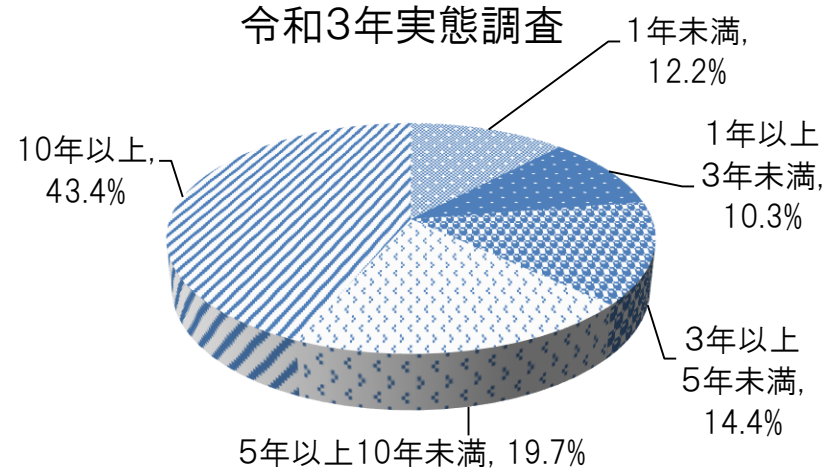


## 【路上生活の期間（都内）】

平成28年実態調査



令和3年実態調査



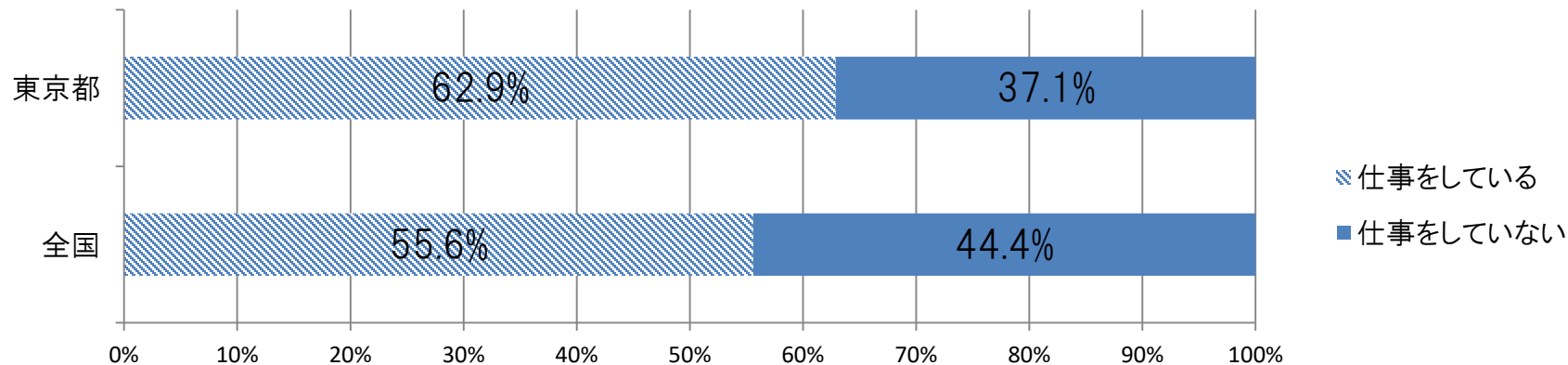
○年齢分布では、70歳代以上が最も多く、60歳代が次いで多い。60歳以上が全体の約74%を占め、高齢化が進んでいる。

○路上生活期間の分布は5年以上の割合が全体で約63%となっており、10年以上は43.4%に及んでいる。

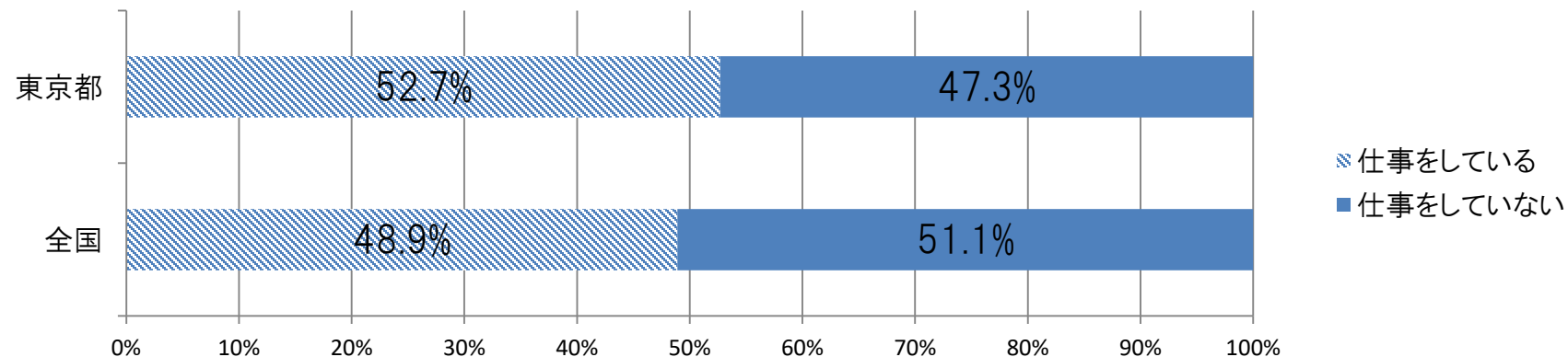
# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）②

## 【収入のある仕事の有無】

### 平成28年実態調査



### 令和3年実態調査

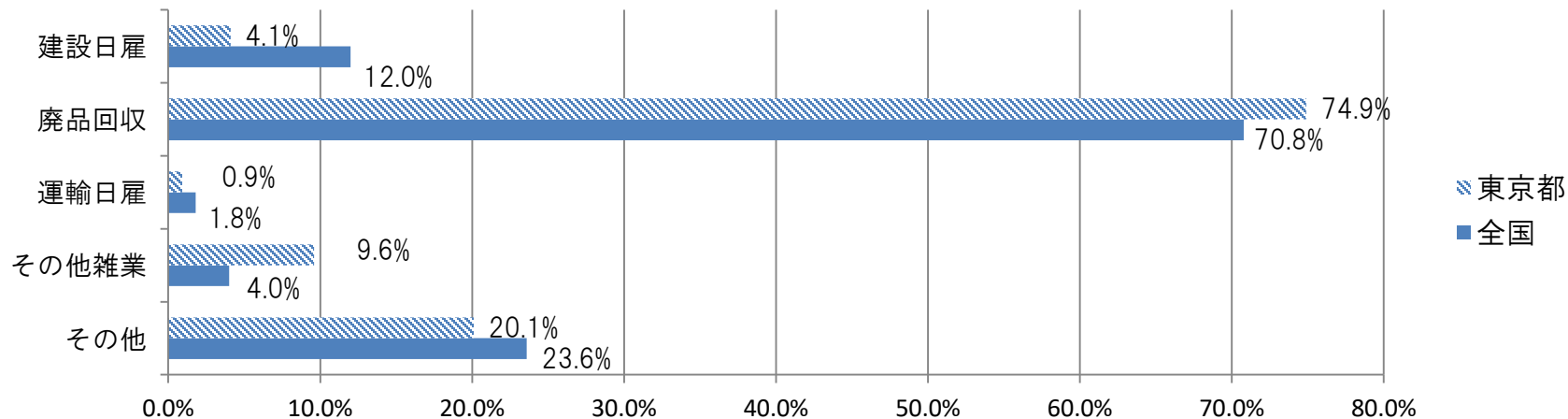


○全体のうち52.7%が何らかの仕事をしており、全国値よりも仕事に従事している者の割合が高くなっている。

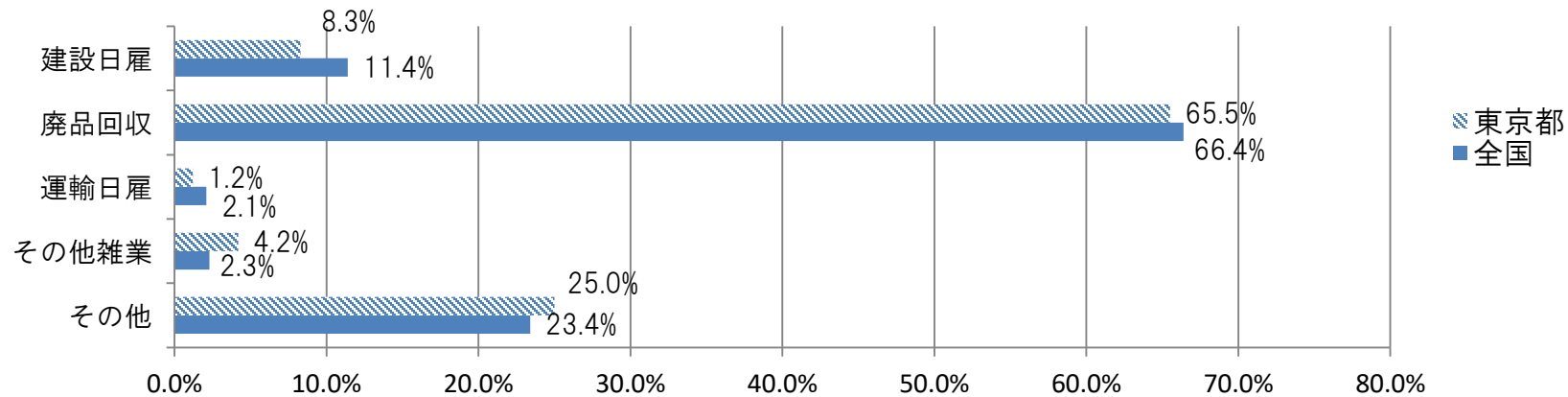
# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）③

【仕事の種類】（複数回答） ※仕事をしていると回答した者の内訳

平成28年実態調査



令和3年実態調査

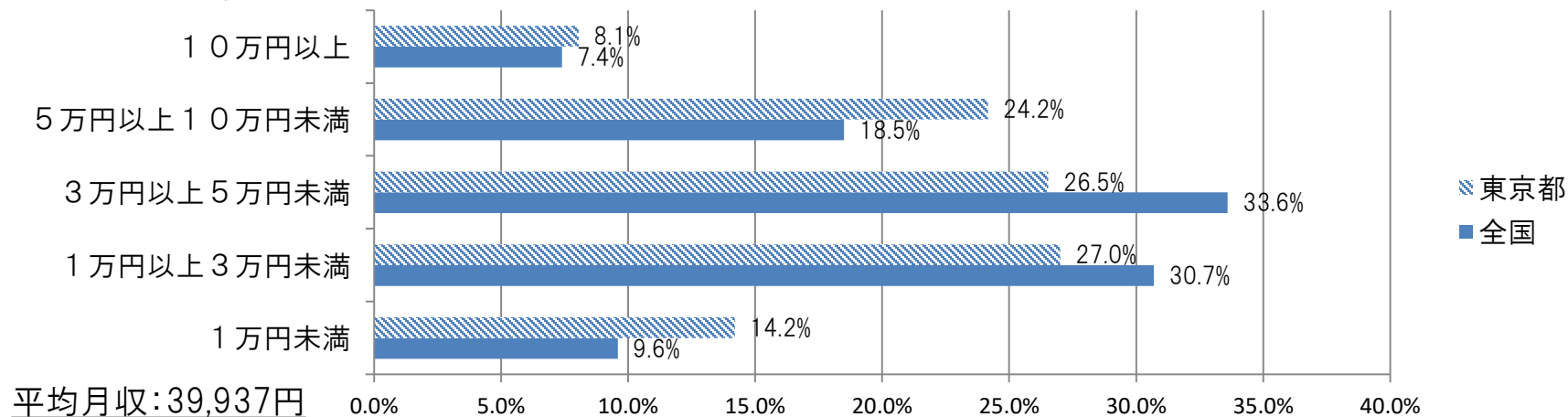


○仕事の種類として65.5%が廃品回収(アルミ缶・段ボール・粗大ごみ・雑誌集め)となっており、多くのホームレスが安定した収入の職に従事できていない。

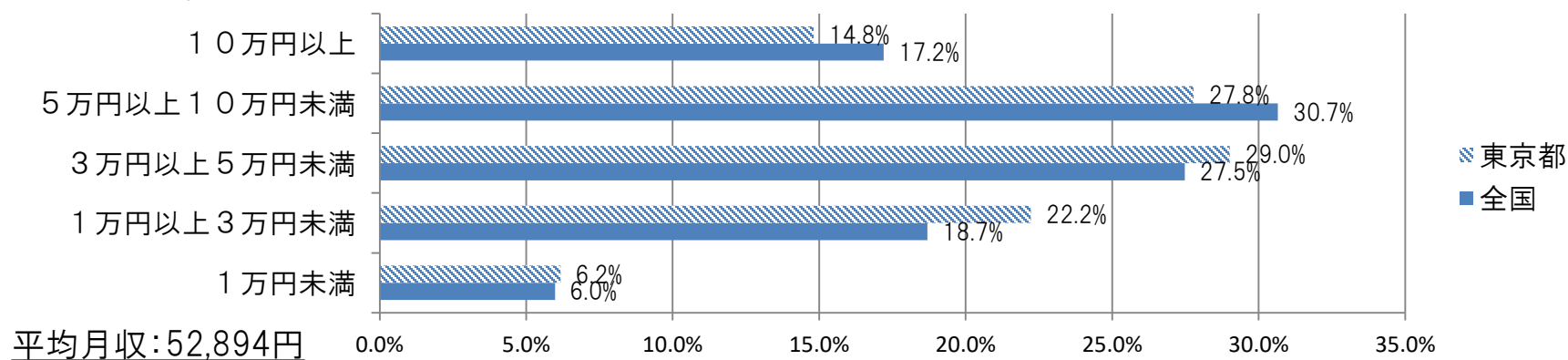
# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）④

## 【収入状況】

### 平成28年実態調査



### 令和3年実態調査

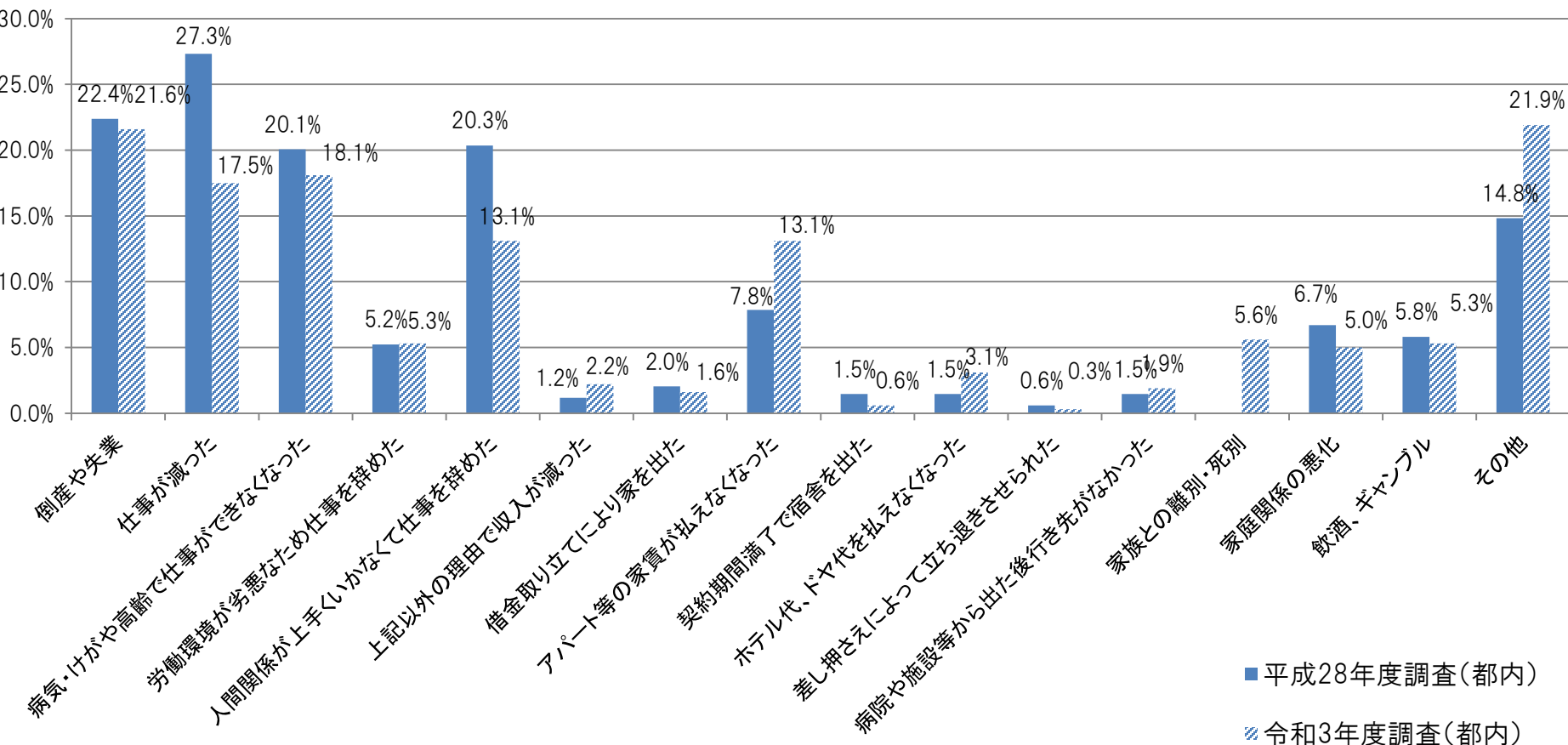


- 東京都では、3～5万円未満が最も多く、次いで5～10万円未満となっている。
- 仕事をしている者の約57%が月収5万円未満となっている。



# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）⑤

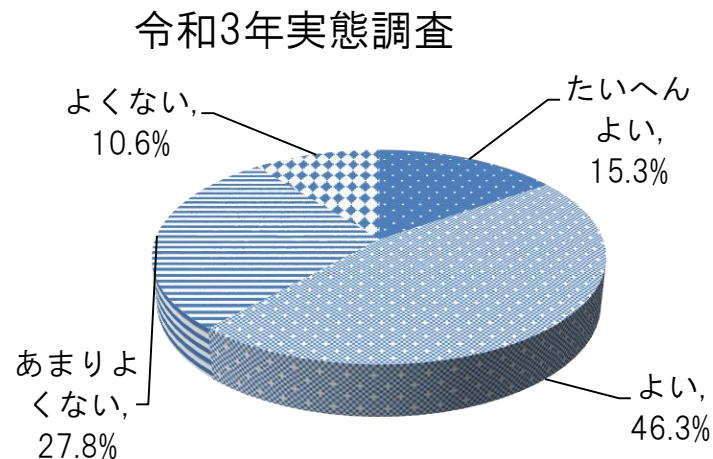
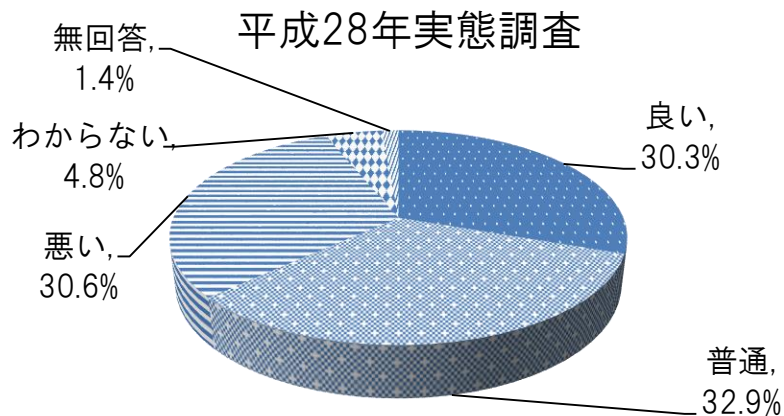
【路上生活に至った理由（都内）】（複数回答）



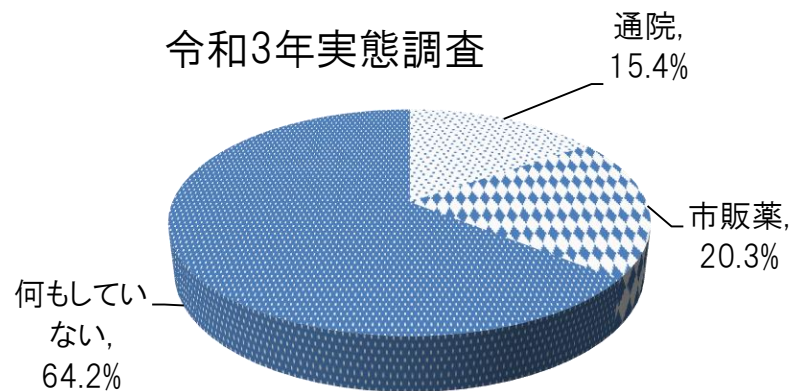
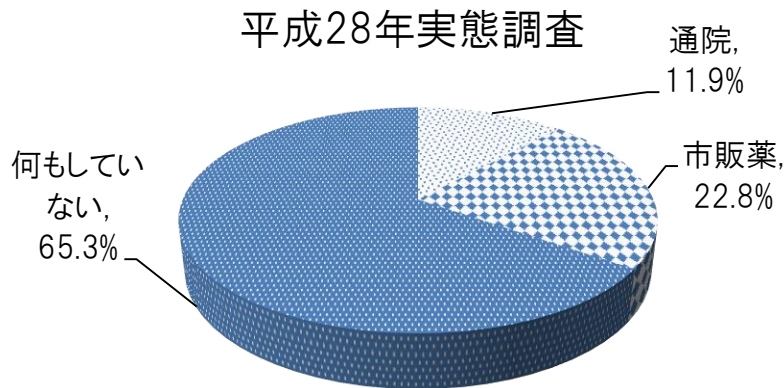
○路上生活に至った理由としては、倒産や失業、仕事ができなくなった等、仕事に関するものが多い。  
 ○その他、家族との離別・死別、家庭関係の悪化、飲酒、ギャンブル等多様な問題が理由となっている。

# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）⑥

## 【健康状態（都内）】



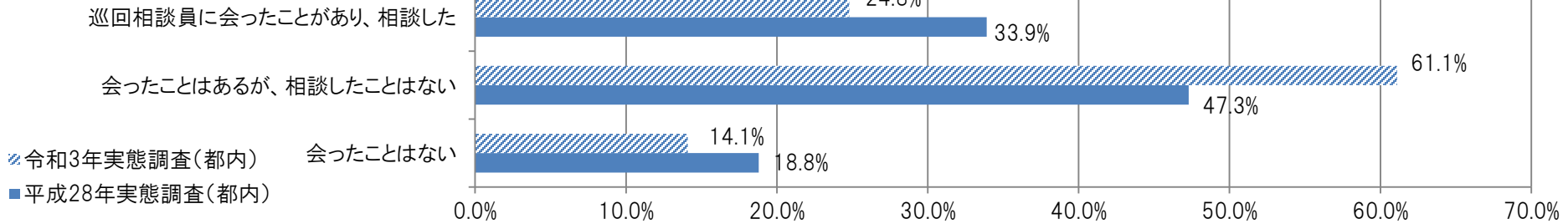
## 【健康状態が「悪い」「あまりよくない」「よくない」と回答した者の対処方法（都内）】



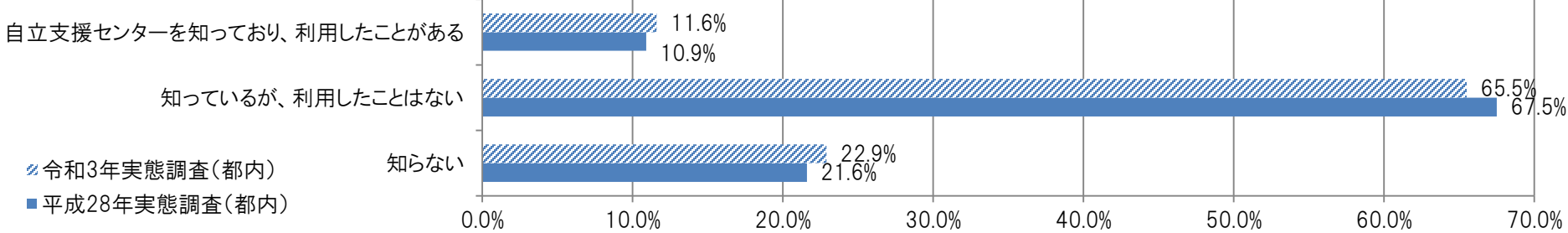
- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えたホームレスは、38.4%である。
- 健康状態が「あまりよくない」「よくない」と答えたもののうち、何もしていない割合は、平成28年調査と比較し、減少しているものの、64.2%を占めている。

# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）⑦

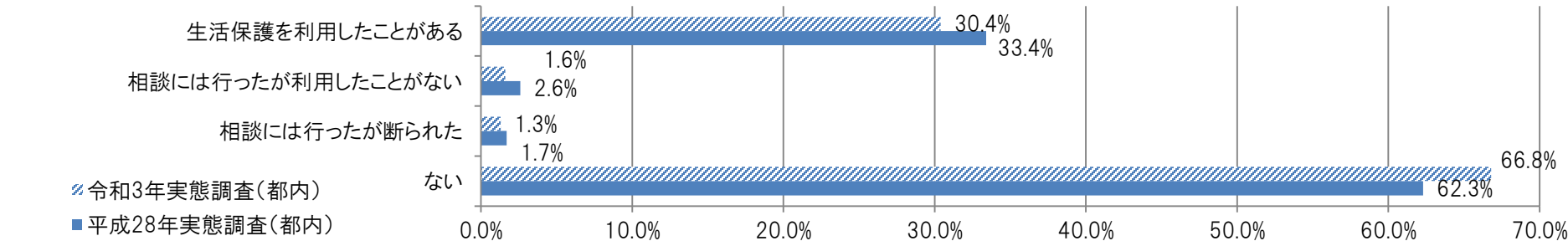
## 【巡回相談について（都内）】



## 【自立支援センターについて（都内）】



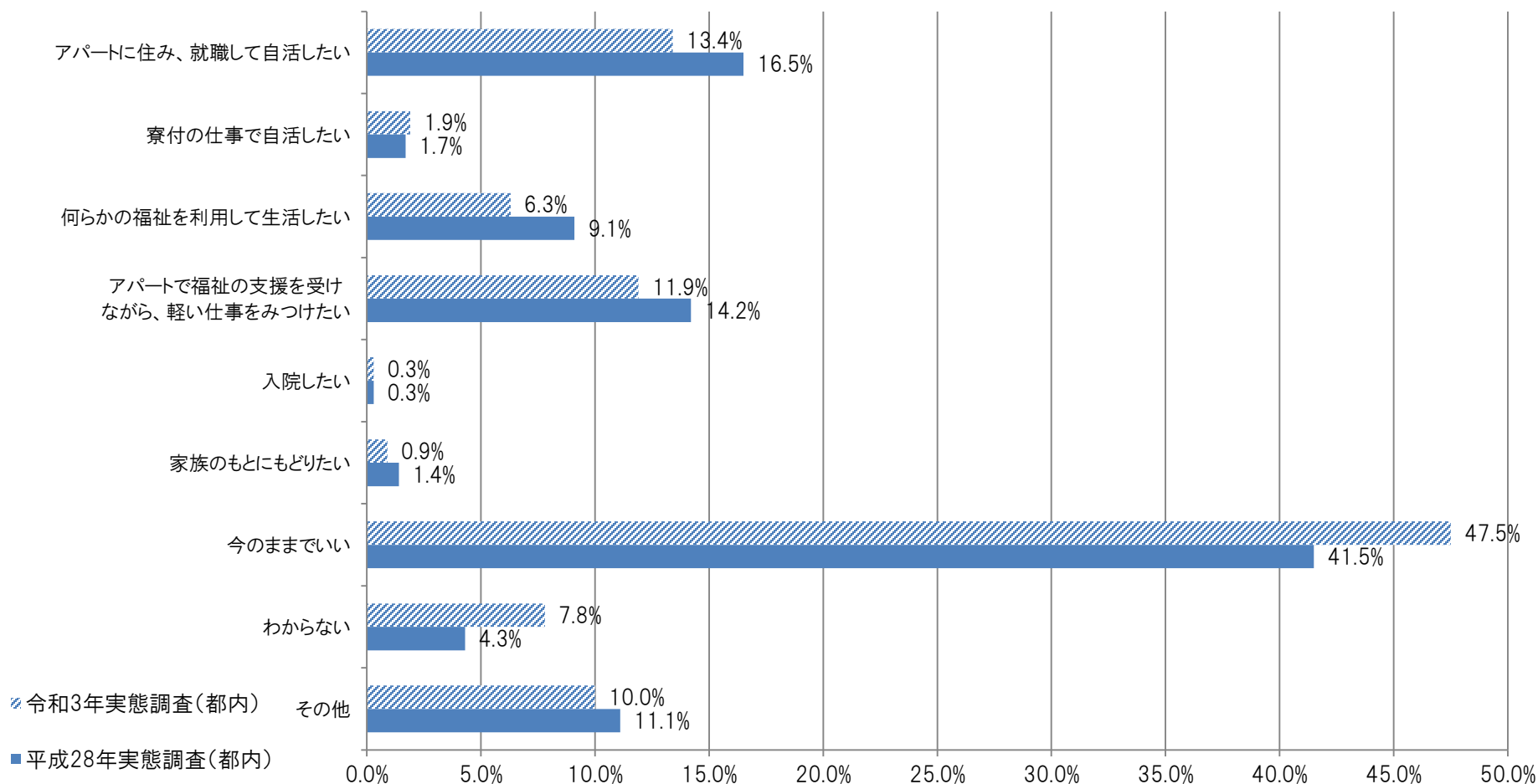
## 【生活保護について（都内）】



○自立支援センターの利用実績は増加しているが、巡回相談員への相談、生活保護の利用実績は低下している。

# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）⑧

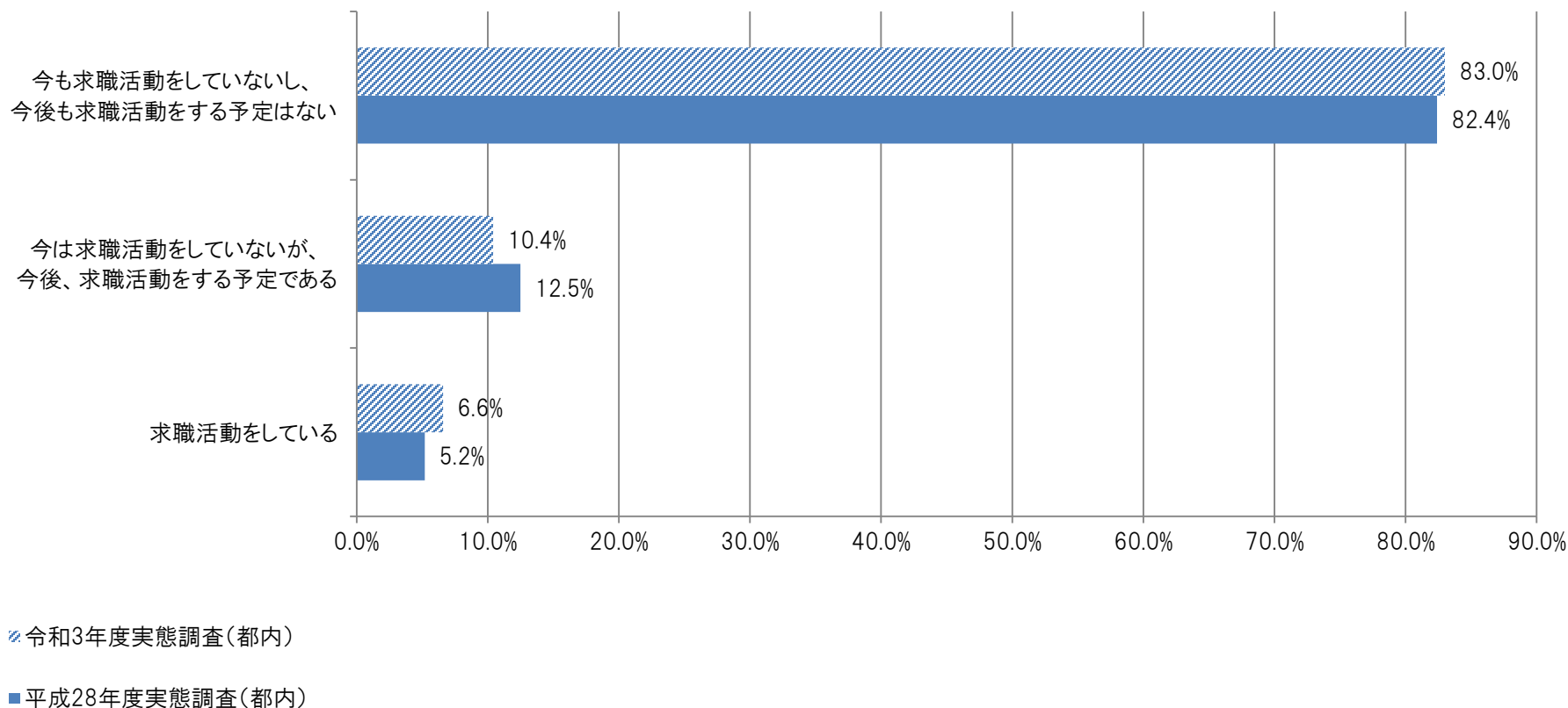
## 【今後どのような生活を望むか（都内）】



○今後の生活については、今のままでいいという回答が47.5%で最も多く、次いで、アパートに住み、就職して自活したいという回答が13.4%となっている。

# ホームレスの実態に関する全国調査の状況（抜粋）⑨

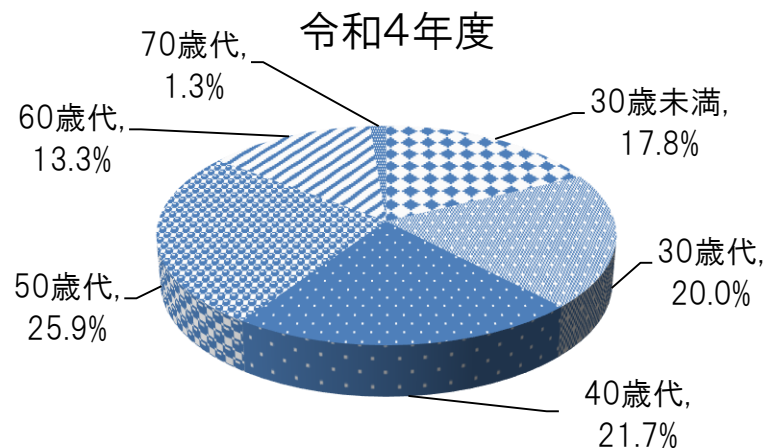
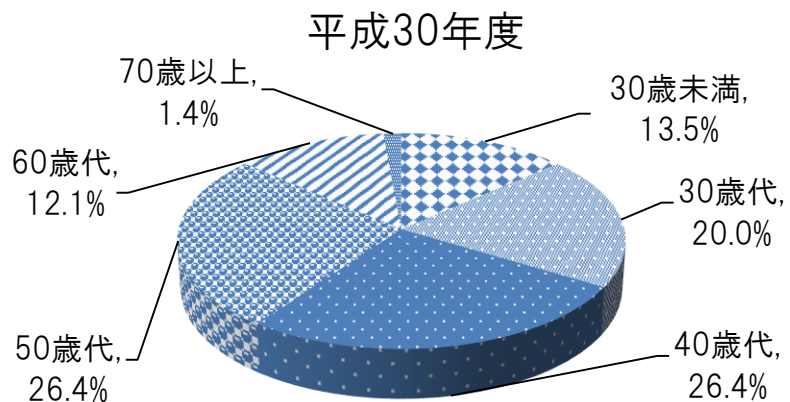
## 【求職活動（都内）】



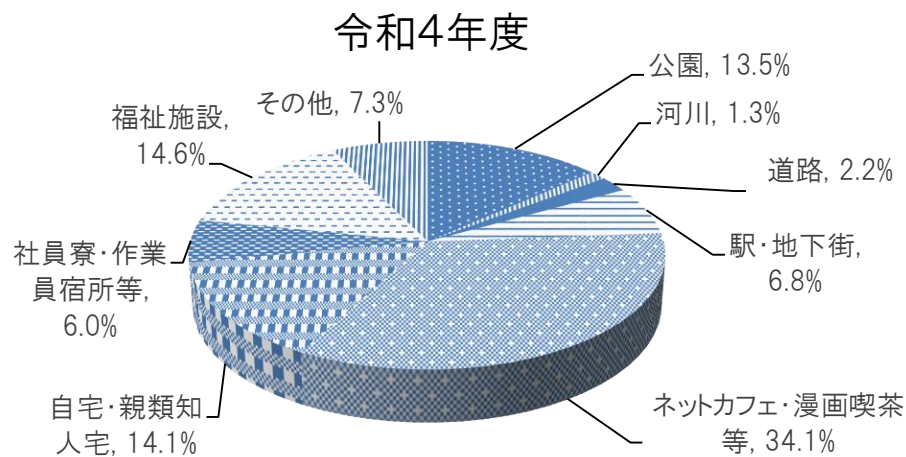
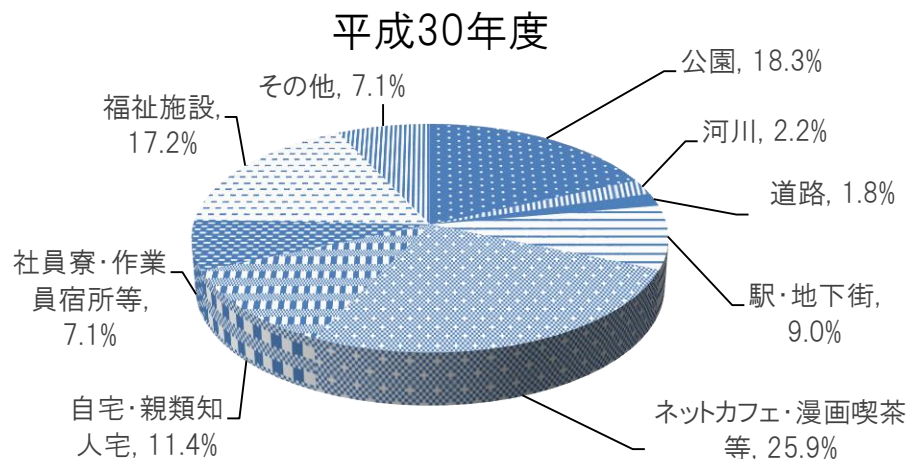
○求職活動については、今も求職活動をしていないし、今後も求職活動をする予定はないという回答が83.0%と最も多い。

# 自立支援センター各事業の実績等①

## 【緊急一時保護事業利用者の年齢構成】



## 【緊急一時保護事業利用者の居住地（入居前）】



○年齢構成について、40歳代の割合が減少し、30歳未満の割合が増加している。

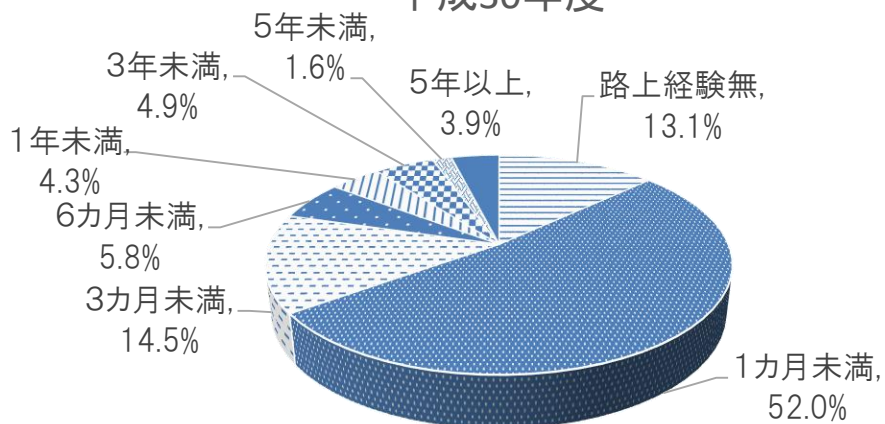
○入居前居住地については、公園の割合が減少し、ネットカフェ・漫画喫茶等の割合が増加している。



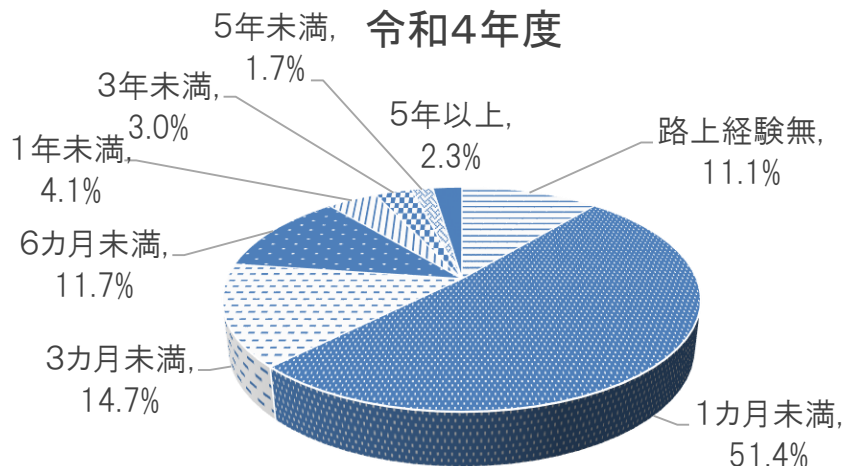
# 自立支援センター各事業の実績等②

## 【自立支援事業利用者の路上生活期間】

平成30年度

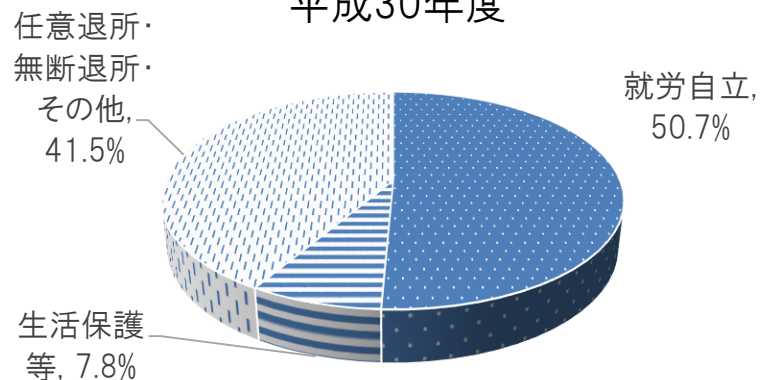


令和4年度

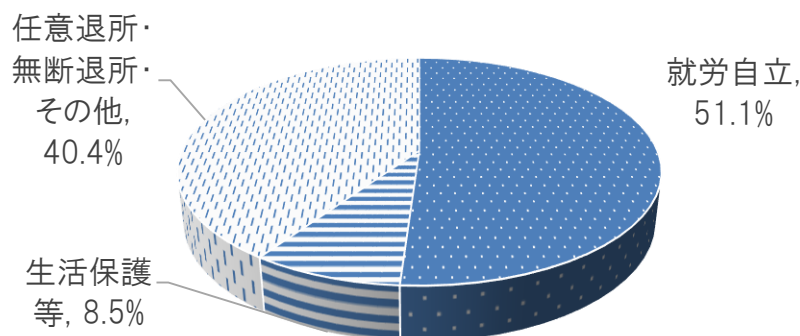


## 【自立支援事業利用者の退所理由】

平成30年度



令和4年度



○路上生活期間について、1年未満の者が約93%を占め、利用者のお大半が路上生活期間の短い者となっている。

○自立支援事業利用者の51.1%が就労自立している。